

おうち時間に 読書はいかがですか。

今こそ、 読書

コロナ禍がいつ収束するのかまだ目途が立たず、外出を自粛しておうち時間を過ごしている人は、多いと思います。

また、これからのおうち時間をどのように過ごそうか迷っている人もいるのではないのでしょうか。

そんな人は、今こそ読書をしてみてはいかがでしょう。今回の特集では、読書の魅力など読書の良さについてお伝えしたいと思います。

読書離れ、活字離れ

平成30年に文化庁が実施した調査によると、1カ月に1冊も本を「読まない」と回答した人の割合は全体の約半数でした。また、以前と比べて読書量が増えているのか、減っているのかという質問に対して、約7割の人が「減っている」と回答しました。

しかし、同調査によると、6割の人が読書量を増やしていきたいと考えているという結果でした。

読書の魅力などについて、図書館や小・中学校などで読み聞かせボランティアを行い、大型パネルシアター、大型紙芝居の制作にも携わっている図書館協議会委員長の小杉美智子さんにお話を伺いました。

私は、小さい頃から周りに絵本などがある環境だったので、自然と本を手に取り、読むようになりました。その頃は、日本昔ばなし全集やイソップ童話、グリム童話などの世界昔ばなし全集を読んでいた。

中学、高校時代は、部活も忙しかったので、比較的短編な星新一さんや畑正憲さんの作品を読みました。子どもが生まれてからは、子どもと一緒に楽しむために絵本を読み始め、読み聞かせボランティアをすることもあり、現在も主に絵本を読んでいます。

読書の魅力は、頭の中で普通では起こりえないことを体験することとができ、行けないところに行くことができるワクワク感だと思っています。また、読書をすることで、読解力を身に付けることができるとい話を聞きますが、それだけではなく、想像力や自分で物事を考えることができる力を育む



図書館協議会委員長

小杉 美智子 さん

ことができると思っています。想像力や自分で考える力を持っていれば、他人に何かを言われても短絡的に自分を傷つけることなく、別の言葉のとらえ方や相手の立場になって考えることができるため、人生を強く生きていくことができます。のではないのでしょうか。読み聞かせボランティアを通じて、子どもたちに本の楽しさを感じてもらい、本に興味を持ってもらうことで、子どもたちが強く生きていく一助になると嬉しいですね。

また、読書をすることで、その人なりの想像で世界が出来上がり、100人いれば、100通りの世界が出来上がります。その世界を旅して体験することで普段では味わえないような力強さや面白さにたくさん出会うことができます。その経験は、自分の宝物になり、生活を楽しく豊かなものにしてくれると思います。

読書は・・・

読書することで、新しい知識を得ることができ、豊かな言葉や表現を学ぶことができます。また、感性が豊かになり、想像力や空想力を養うこともできます。

そして、読書は、子どもにとっても言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

情報が溢れる社会だからこそ

インターネットの普及により、知りたい情報を簡単に検索することができ、簡単に調べられる反面、記憶に残りづらかったり、たくさんの情報がインターネット上に溢れているため、情報の正誤の判断が難しいことがあります。一方、本で調べると時間はかかりますが、時間をかけた分、記憶に残りやすく、知識も深めることができ、情報についてもしっかりと検討することができるのではないのでしょうか。

情報が溢れる社会だからこそ、読書をしてみませんか。



令和3年度の図書館の貸し出しが多かった本

ランキング

(4月1日～12月27日)

一般図書 (話題の本や物語を読みたい人にオススメ！)

- 1 魔力の胎動 (東野圭吾 著)
- 2 マスカレード・ナイト (東野圭吾 著)
- 3 希望の糸 (東野圭吾 著)
- 3 そして、バトンは渡された (瀬尾まいこ 著)

絵本 (子どもと一緒に楽しみたい人にオススメ！)

- 1 しろくまちゃんのほっとけーき (わかやまけん え)
- 2 ポケモンをさがせ！エメラルド (相原和典 画)
- 3 がたんごとんがたんごとん (安西水丸 さく)

図書館をご利用ください 手軽に読書が始められます

図書館には、たくさんの本があり、誰でも気軽に利用できます。また、何を読もうか迷ったときには司書が本選びをお手伝いします。図書館でああなたのお気に入りの一冊を探してみませんか。



岩倉市出身の
小説家 青羽悠さん^{あおばゆう}を
お招きして、
読書活動推進講座を
開催します

このまちで小説家になってから

【問合先】生涯学習課図書館グループ (☎ 37-6804)

青羽さんが幼少の頃から小説家になるまでに、どんな本を読み、何を感じて小説を書こうと思ったのか等をお話ししていただきます。

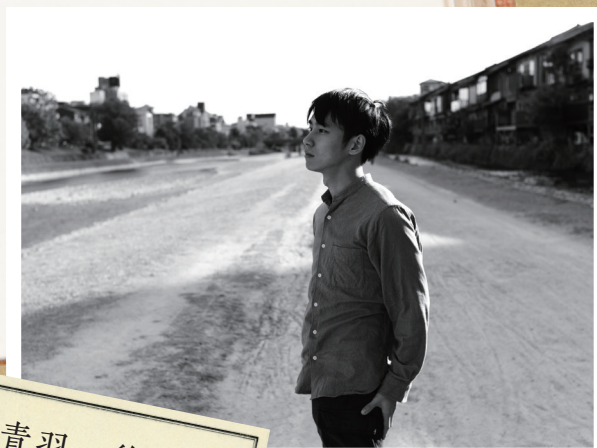
また、受講者の皆さんから事前に受け付けた質問にインタビュー形式で答えていただきますので、現在、そして今後の創作活動について興味深いお話が聞けると思います。小説家から生の声を聞くことは、皆さんの読書活動にきっと役立つはずです。ぜひ、お申し込みください。

- とき 3月5日(土)午前 10 時～ 11 時 30 分
- ところ 図書館 2 階 視聴覚室
- 対象 市内在住の人
- 定員 30 人 (先着順)
- 費用 無料
- 申し込み 2月1日(火)～ 25 日(金)までに図書館へお申し込みください。(電話可)

ー プロフィール ー

高校在学中に初めて書いた小説「星に願いを、そして手を。」で小説すばる新人賞を最年少で受賞。

現在は、京都大学に在学中で、勉学の傍ら執筆している。著書に「風に溺れる」など。



青羽 悠さん